

足立区議会議員

へんみ圭二

ひるまず臆せず迎合せず 闘う無所属

「無所属では何もできないだろう——」

初当選から4期16年、何度も言われてきた言葉です。

しかし、無所属でも、16年の議会経験と発想力・行動力で足立区を変えることができます。今号の区政報告では、4年間の任期中に自分の提案によって改善できた点を中心に報告させていただきます。

4期16年間、へんみ圭二は政党や政治団体、業界団体などからの支援を一切受けずに、完全な無所属として活動してきました。

長いものに巻かれた方が多くの支援を受けられるので、選挙も楽になります。

それでも、なぜ無所属を貫くのか。

無所属でなければ出来ない活動があるからです。

この4年間、足立区議会が全国的なニュースに取り上げられることがありました。

その度に、本会議場で発言をするへんみ圭二の姿も放送されました。

45人の足立区議会議員のうち、議会活動が報道で取り上げられた議員はごく一部です。

へんみ圭二は、自民党や公明党から共産党まで、どの政党に対しても「おかしいことはおかしい」と正面から議論してきました。政党の意向に左右されない無所属だからこそ可能な議会活動です。

初当選から初志貫徹。

政党などの既得権益を守るためではなく、足立区の実現だけを指して、誰にも付度せずに議会活動を続けてきました。

これからも一人の足立区民として、しがらみのない立場から足立区をグレードアップしていきます。



自民党提案のながらスマホ防止条例について「通話やBluetooth機器・スマートウォッチなどの使用まで制限するのはおかしい」と指摘。



自民党区議のLGBT差別発言について「問題発言の撤回を即座に求めなかった区議会議員全員にも責任がある」と言及。

プロフィール

1981年1月20日生まれ 42歳 O型

178cm 68kg

趣味：映画・読書・洋楽・遺跡めぐり

好きな言葉：和して同ぜず

足立消防団第三分団

五兵衛葛西囃子保存会

専修大学校友会 代議員

NPO法人足立フォーラム21 理事

2007年4月 足立区議会議員 初当選(26歳) 3660票 37位

2011年5月 二期目当選(30歳) 4241票 30位

2015年6月 三期目当選(34歳) 7314票 3位

2019年5月 四期目当選(38歳) 7194票 2位

チェリ-幼稚園・東加平小学校・東綾瀬中学校へ通った生粋の地元っ子。

小学校の6年間は綾瀬東町会の少年野球チーム「綾瀬ガッツ」で野球に熱中。

専修大学付属高校卒業。専修大学経済学部を家庭の諸事情により中退。

2007年3月まで格付機関で働く。35歳で復学し、2018年に専修大学を卒業。

3月生まれは、4月生まれに比べて 年間30万円以上も損をしていた!

幼稚園に2歳で入園すると、月額3,500円の補助金が支給されます。
そして、満3歳になると月額33,000円に補助金が増額されます。

同じ学年でも、4月生まれと3月生まれでは補助金総額の差は30万円以上。
「生まれた月でこれほどの差が生じるのは不公平」と改善を求めました。

へんみ圭二の提案によって、
2023年4月からは何月生まれであっても全員に月額33,000円の補助金が支給されることになりました。

へんみ圭二が議会で取り上げるまでは、この問題について議論されたことはありませんでしたが、
保護者の方々や幼稚園の関係者の皆さんと意見交換をする中で不公平な制度に気づき、改善に取り組みました。

あらゆる現場で様々な声を聞き、その声を行政に届ける。
そして、不公平を正す。

これからも、へんみ圭二はしがらみのない完全無所属の議員として、皆さんの声を足立区の発展に繋げていきます。



超大型台風を教訓に防災力をアップ

2019年10月に発生した台風19号は、足立区全域で3万人以上の方々が避難をする事態となりました。当日は、消防団員として避難所を回り、警戒をしていました。ある小学校では、強風で飛んできた石で教室の窓ガラスに大きな穴が開いてしまいました。台風直後の議会で「子供たちが学び、避難所としても使われる教室は強化ガラスにすべき」と提案。区内の全校で強化ガラスに取り替えられることになりました。また、2019年の台風では、足立区の施設がある千葉県鋸南町も甚大な被害を受けました。台風直後に、区内の飲食店の仲間とともにキッチンカーで鋸南町へ行き、焼小籠包を無料配布。350個の焼小籠包を鋸南町の皆さんにお楽しみいただきました。

へんみ圭二の特徴のひとつは「行動力」です。



2019年9月 鋸南町にて



スマホで手続きが済む便利な区役所へ!

コロナ禍の前から、区役所のICT化を積極的に提案し続けてきました。
保育園の入園申し込みなど各種オンライン申請、窓口のキャッシュレス化、InstagramやLINEの活用、オープンテータ・カタログの充実などを実現。また、ICT推進の計画策定を訴え、現在では「足立区DX推進計画」に発展しています。
一方で、ICT化の名の下に存在した無駄遣いは見逃しません。
足立区公式アプリ「アダチさん」について、「血税を使って行政が行うことではない」と指摘し、廃止になりました。

また、「防災ナビ」や「ゴミ出しアプリ」などについても使いにくさを指摘し、抜本的な改善を提案。全てのアプリがリニューアルされました。

今後も、産後ケア等のオンライン申請など、スマホで様々な手続きを済ませられる足立区役所を目指します。



美人画

無駄を指摘し、廃止になった
足立区公式アプリ「アダチさん」

組織を立て直し、ICT教育の先進区へ

全国の小中学校では、2021年3月までに一人一台のタブレット端末が配布されました。

しかし、足立区では準備が遅れ、全員の子供たちに配布できたのは2021年9月。ここまで整備が遅れたのは全国でも20の自治体だけでした。「この遅れを挽回すべく、ICT教育の専門部署を立ち上げるべき」と提案。

令和4年度に学校ICT推進担当課が設置され、ICT教育の先進区へと進んでいます。

また、学校からのお便りの配信や欠席連絡を行えるアプリも葛飾区での導入事例を挙げて提案し、令和5年度から足立区でも導入されます。

子供たちが笑顔で通学できるように

ピカピカの一年生が重たい荷物でヨロヨロと通学している姿を見て、「笑顔で通学できるようにしたい」とランドセル症候群について議会で何度も取り上げました。教科書を学校に置いて帰る「置き勉」やリュックでの通学などを進めています。

また、中学生も通学時の負担が軽減されるように、鍵付きロッカーの整備などを提案しています。

介護の質を高める

足立区は、特別養護老人ホームの建設を進めています。しかし、「新しい特別養護老人ホームが完成するたびに、介護人材の取り合いが起き、人材確保に苦慮している」と複数の施設から現場の声を聞きました。

このままでは、新たに施設を作っても介護人材が不足し、虐待なども起こりかねません。

介護人材の確保についての計画策定の必要性を訴えた結果、令和6年度に人材確保について具体的な方策がまとめられることになりました。

介護の質を高めて、安心して暮らし続けることのできる足立区を創ります。

動物も暮らしやすい足立区に

飼育放棄されてしまったトイプードルと一緒に生活しています。

以前から動物愛護を推進してきましたが、「ふるさと納税のメニューに動物と共生できる社会づくりを加えてはどうか」と提案。

2022年7月から、ふるさと納税のメニューに「不幸な猫を減らし動物と共生する地域活動を応援したい」が追加されました。

返礼品無しにも関わらず、わずか半年で約300万円もの寄付が全国から寄せられました。

この寄付金は、野良猫の一時保護や不妊去勢手術の費用助成など動物愛護事業に活用されています。



我が家の愛犬

税金を使うだけでなく、財源を生み出す役所へ

ふるさと納税での流出額は、足立区は20億円を超えてしまいました。

足立区のふるさと納税の返礼品は12品目しか無かったので、「公募して魅力的な返礼品を増やしてはどうか」と提案。

公募が行われ、2022年10月から返礼品が64品目が増えました。

区内の飲食店の逸品など多種多様な返礼品が揃い、足立区へのふるさと納税が増えています。

税金を使うだけの区役所から、財源を生み出す区役所へと進化させていきます。



最後まで笑顔で暮らせる足立区に

胆管がんを患った父を自宅で看取りました。

終末期は足がパンパンに膨れ上がった状態でしたが、毎晩一時間の足のマッサージは、父と様々な話をできた貴重な時間でした。24時間体制での介護は心身ともに疲弊しましたが、最後に父とかけがえのない大切な時間を過ごし、在宅医療の過酷さと素晴らしさを経験しました。

厚労省の調査では「終末期は自宅で療養したい」という方は約6割ですが、実際に自宅で最後の瞬間を迎えられる方は2割にも達しません。介護をする家族のケア体制などを充実させるとともに、介護人材の確保などを進め、在宅療養のハードルを下げていきます。

最後まで住み慣れた場所で過ごすことのできる足立区を目指します。



何歳でも成長できる社会へ

18歳で専修大学に入学しましたが、家庭の経済的な事情により20歳で自主退学をしました。奨学金を借りることも考えましたが、働いて家計を支えるべきだとの判断でした。

26歳で足立区議会議員に初当選させていただき、議員として働かせていただく中で「もっと勉強しておくべきだった」との想いが強まりました。議員と学生の両立に不安はありましたが、35歳で専修大学の二部(夜間部)に再入学。議会や地域活動を最優先にしつつ、夕方からは可能な限り大学に通い、2年間で卒業をしました。学び直した2年間は、自分の人生にとって大きな財産になりました。

15歳下のクラスメイトと話をする中で、多額の奨学金を借りている苦勞や、大学を辞めなくてはならない若者の悲しい現実を目の当たりにしました。

足立区では、返済不要の奨学金制度が始まりますが、対象は現役と二浪までの学生のみ。

コロナ禍による影響で大学を辞めざるを得なかった学生も多くいます。

「大学に通い直し、再び学びたい」という人々を支援する制度づくりを議会では提案しています。



挑戦に年齢は関係ありません。

何歳でも成長できる社会へ、へんみ圭二は挑戦を続けます。

他にも

足立区温水プールの子どもの料金200円→100円へ値下げ、図書館でWi-Fi・電源の利用を可能に、産前産後のサポート体制を拡充、キャッシュレス還元キャンペーンの推進、バラスポーツの支援、トレーニングルームの拡充、パークde筋トレの改善、分煙の推進、小中学校での金融教育など様々な施策を進めてきました。

連絡先

〒120-0005
東京都足立区綾瀬7-13-18
Mail: info@henmi-kg.com
Fax: 03-3606-5903

へんみ圭二の活動報告はこちら



henmi-kg.com